

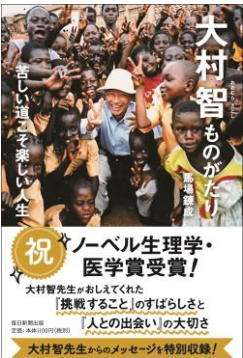
読書だより

第4号

大阪府立羽曳野支援学校
読書活動推進委員会

堺咲花分教室では、自立活動の時間に朝読タイムがあり、自分が興味を持った本を読んでいます。おすすめの本を紹介します。

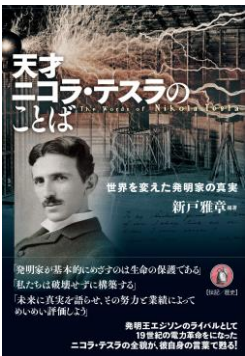
『大村智ものがたり 苦しい道こそ楽しい人生』
馬場錬成（毎日新聞出版）



子どもから大人まで幅広い世代の心に響く感動のストーリーです。

「人と違うことをしよう」「ポケットにはいつもスプーンとビニール。世の中を変える微生物を発見。メルク社で実験がはじまる。ついにエバーメクションを発見。動物に効くなら人間にも！熱帯地方のオンコセルカ症にも効く。WHOも驚いたイベルメクチンの効き目。蔓延国にイベルメクチンを無料で配布。微生物の中から二億人を救う発見をして2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士の半生が生き生きと綴られています。

『天才ニコラ・テスラのことば 世界を変えた発明家の真実』
新戸雅章（小鳥遊書房）



天才らしい抽象的な言葉が多いですが、比較的読みやすいので、初心者から上級者まで読める本です。ニコラ・テスラの天才性と思いがわかるので、論理的にも直観的に読めます。「現在は、彼らのものかもしれない。だが、未来はわたしのものだ！」

『ワンダー』

R・J・パラジオ・中井はるの訳（ほるぷ出版）



少年オギーは、生まれつきの障がいにより、人とは違う顔をもっていた。幼い頃からずっと母イザベルと自宅学習をしてきた彼は、小学五年生になって初めて学校へ通うことに。はじめのうちは同級生たちからじろじろ眺められたり避けられたりするオギーだったが、オギーの行動によって同級生たちは少しずつ変わっていく。本書は2017年に「ワンダー 君は太陽」のタイトルで映画化されています。

『神々の島 マムダ』



江副信子（福音館書店）

ある朝、目ざめた少女コルナは、「今日こそ旅立ちの日だ」という確信を持つ。河岸に歩み出たコルナを待っていたのは、一隻の美しい船だった。紺碧の海に囲まれ、緑したたる島マムダへ。いにしえに神と人が同じ時空で幸せな暮らしをつむいでいた神話的な島マムダ、そして今は邪悪な神々を奉ずる他国人による庄政に苦しんでいるマムダへ。旅立ったコルナを待ちうけていたのは…。

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』
ブレイディみかこ（新潮文庫）



人種も貧富の差もこちゃまぜの中学校に通い始めたぼく。人種差別丸出しの移民の子、アフリカからきたばかりの少女やジェンダーに悩むサッカー小僧。まるで世界の縮図のようなこの学校では、いろいろあって当たり前、みんなぼくの大切な友だちなんだ！。最後はホロリと涙のこぼれる感動のリアルストーリー。